

ペルー 生食用ブドウが世界市場のトップになった秘密

[FreshFruitPortal](#) 2025年8月26日

ペルーの生食用ブドウは、強い勢いと高い期待を抱え、2025-26年度の輸出シーズンに向かっていく。

暫定的な予測によると、輸出の伸びと市場の状況がうまく噛み合えば、ペルーの輸出額(FOB)は9%増加し、23億ドルを超える可能性がある。最適ではないシナリオにおいても、少なくとも5%の成長率が見込まれている。この継続的な上昇傾向は、近年米国とイタリアを上回り、世界トップの生食用ブドウ輸出国となったペルーの地位を強化するものである。

ペルーの台頭は偶然ではなく、高性能な特許品種の採用、種なし白ブドウへの明確な移行、ピウラ県等の乾燥地域における精密灌漑技術の導入を組み合わせた集中的な戦略の成果である。価格の高い出荷時期を狙いすました商業的タイミングも奏功し、米国市場へのアクセスを獲得した。その成果は数字が物語っており、ペルーは現在、40以上の国際市場にブドウを輸出している。

しかしながら、競争が激化する(昨シーズン、チリの輸出は14%増加し、中国は21%増加した。)とともに、世界の生食用ブドウの貿易額は年間120億ドルを超えており、首位を維持することは容易ではない。

消費者トレンドへの対応

特にエルニーニョ及びラニーニャの影響を受けやすい地域では、価格圧力及び気候上の課題により、ペルーの輸出業者はサプライチェーンの各段階の精緻な調整を迫られている。ペルーの主な強みの一つは、品種構成の急速な変更である。10年前には、栽培面積の16%のみが特許品種であったが、現在では75%近くに達しており、60以上の近代的な輸出品種が消費者の嗜好、特に種なし白ブドウへの世界的な強い需要に対応している。

ペルーは、消費者が品種に求めるものを理解する手法を見出した。この洞察力は、機動性及び革新への投資と相まって、ペルーを世界のブドウ輸出における支配的勢力へと押し上げた。2025-26年度シーズンは10月に始まるが、ペルーは単に成長を目指すのではなく、主導性の発揮に向けて準備を整えている。

(関連記事) ペルー 生産者団体は生食用ブドウの4%増加を予測

[FreshFruitPortal](#) 2025年8月22日

ペルー生食用ブドウ生産者協会(PROVID)は、2025-26年度の推定生産量を8,610万箱(8.2kg/箱)と予測していると投稿した。この予測は、生産量の4%の増加を示している。

同協会はLinkedIn(ビジネス向けSNS)への投稿で、国内最大の産地である北部のピウラ県では出荷が早く始まり、生産量が2%増加するとしている。南部のイカ県では生産量は6%の増加が見込まれる。

昨シーズン(2024-25年度)は、20億ドル以上の生食用ブドウが輸出され、このアンデスの国にとって優れた成果がもたらされた。

フレッシュフルーツペルー社(情報データ会社)の最新市場レポートでは、10月に始まる2025-26年度シーズンにおいても、輸出額(FOB)は9%増加すると予測されている。

ペルーは現在、40カ国以上に生食用ブドウを輸出しており、主な出荷先は米国、EU及び中国である。

執筆者: カーラ・エスピノザ・グティエレス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)